

知名度・アクセスに課題

欧米旅行社の「違いが魅力」 担当25人調査

本土から沖縄ルート

多くの外国人観光客が訪れる東京や京都から県内につながる観光ルートづくりに向けて県内を訪れた欧米の旅行社の担当者ら25人のアンケート結果が12日、那覇市であった広域観光連絡協議会（委員長、廻洋子淑徳大教授）で報告された。

という声が出た。

協議会の委員からは、広い層にPRするだけでなく、沖縄に興味がある人にピンポイントで働き掛けるなど工夫が必要といった意見が出た。

協議会は、全体の1割に満たない県内への外国人客を増やすため、県などが取り組む「国際観光戦略モデル事業」の中でゴールデンルートと県内を結ぶルートづくりを検討している。

25人は1月に来日。外国客

に人気がある東京、京都、大阪の「ゴールデンルート」を経由して県内に入り、4日間かけて首里城や国際通り、海洋博記念公園などを回った。県内を回った感想として

「東京、大阪、京都を旅行した後、リラックスする場所として考えられる」「本土とは違うことが魅力」など高く評価する意見があったが、「アクセスが悪い」という指摘も

出た。

一方、旅行商品をつくる際の課題などについては「ビーチだけでは東南アジアなど競合する地域に差をつけられない」「沖縄の知名度が低い」

外国客サービスに力

県内を訪れる観光客数が落ち込む中、各ホテルは外国客向けサービスに力を入れてい

る。景気低迷や人口減で市場が縮小傾向にある国内客の伸びが期待しにくい一方、経済

成長が続く中国など外国客への期待が高まっているからだ。

恩納村の「カフーリゾートフチャク コンド・ホテル」

では客室のテレビで中国、韓国、台湾の番組が追加料金なしで見られる。同ホテルはアジア市場に力を入れており、「アジア地域からのお客さまに、よろこんでほしい」とサービスを導入した。

ホームページでは英語、中国語、韓国語で情報を提供。このうち中国語は、中国本土で使われる「簡体字」と台湾の「繁体字」の両方に対応している。

那覇市のホテルJALシテイ那覇は中国の「銀聯カード」に対応している。支払い時に銀行口座から代金を引き落とすデビットカードで、中国では多くの人が利用している。外国客は増える傾向にあり、「まだ銀聯の利用は少ないが、早めに対応した」としている。